

施工エリア（弊社にて印刷時に自動で出力されます）

掲載社名（弊社にて印刷時に自動で出力されます）

限られた「材」と「技」でひくる 吉野ひのきの気品と香りを楽しむ家



家に入った瞬間に圧倒的な木の香りに包まれる「新・香木の家」。基本設計に含まれている吹き抜けやストリップ階段による開放的な大空間に、薄いピンク色をした吉野ひのきの床や化粧の柱、土佐和紙の壁が映え、心癒される雰囲気を出し出す。見開き写真の写真はすべて施工例



ツートンの外壁、2階のスリット窓がアクセントになったモダンな外観デザイン



吹き抜け上部にも大きな開口部が設けられ、たっぷりの採光・通風を楽しむことができる



玄関からLDKへと足を踏み入れた瞬間から、吉野ひのきの爽やかな香りに包まれる優しい住まい。相応の時間をかけて育てられた木材と、熟練大工の技をかけて実現する。ストリップ階段は同社の標準仕様。快適な冬を演出する蓄熱式暖房機は、80Pの追加オプション25P分

プラン **吉野の林業農家と直接契約で実現**

「新・香木の家」では、主要部の柱に吉野ひのきを化粧で使い、リビング床には同様に吉野ひのきを使用。和室には厚さ30mmの吉野杉、壁は土佐和紙もしくは漆喰、建具はバイン材で仕上げている。吉野材は、木と木の間に非常に狭い「密植」、弱度の間伐を多く繰り返す「多間伐」、「長伐期」、「長期乾燥」



野材の産地は降水量の多い場所。伐採後は葉枯らしによる乾燥を行う

により、年輪幅が狭く均一で強度に優れ、色艶の良い淡紅色の最高品質の木材を生産し続けている。エピソードでは、吉野ひのきとの出会いから、現地へ足を運び、現地林業農家との直接契約をすることで「新・香木の家」を実現。従来シリーズから好評の高気密・高断熱工法に、吹き抜け、ストリップ階段を採用入れる基本設計は継承。さらに80P（80万円分）の設備を自由に選択するシステムを採用している。



吉野材を生産する現地での直接交渉により、独自の仕入れルートを確認



壁紙には伝統技術が生んだ「土佐和紙」を取り入れることもできる



淡紅色の吉野ひのきを使った「新・香木の家」は登録商標取得している



30mm厚の香り高い吉野杉を採用。布団を直接敷けば、リラックスできる寝室に

もっと詳しく知るにはこちら

掲載社名（弊社にて印刷時に自動で出力されます）

エピソード（株）
（住所）千葉県市川市高石31-17
（TEL）047-302-7833
（URL）http://www.ep-k.jp/

問い合わせ先
TEL/047-302-7833

自動出力/資料請求番号

自動出力/連動ナンバー

自動出力/個社ハガキ

自動出力/見学会情報ポット

免費コメント配置

●担当者からご案内

お客様ひとりひとりに合わせた注文住宅を手がけています。お客様の理想を的確に把握するため、入念な打ち合わせを実施。「いい家はお金をかけなければいけない」と思われた方はまず、当社の充実した標準仕様をご確認ください。限られた予算内でも、お客様が満足といえる一部をご提案いたします。



営業/勝保和彦

自動出力/ネット連動マーク

●価格の目安

1500万円～

延床面積30坪

●商品データ

《商品名》新・香木の家

《工法・構造》木造軸組

《標準工期》4ヶ月

《商品の特徴》希少な「吉野ひのき」をはじめ、上質な素材を使った注文住宅。高気密・高断熱仕様をベースに、自由設計や省エネ設備も標準にした身も心も癒される住まいを実現する

●施工対応エリア

東京都、千葉県

●アフター・保証

住宅保証機構（株）による住宅瑕疵担保責任保険。地震保障、期限なしの安心訪問サービス、引き渡し後耐震補強サービス

●会社概要

《設立》1999年4月

《資本金》2500万円

《従業員数》9名

《FAX》047-302-7835

《E-mail》info@ep-k.jp

《対応可能工法》木造軸組

《施工実績》40棟（2012年度）

《建設業許可番号》

千葉県知事許可（般-22）第39198号

《建築士事務所登録》二級建築士事務所登録

千葉県知事登録 第2-0707-6425号

《宅建業免許番号》

千葉県知事免許（3）第14533号

このレポートの見どころ

素材 希少な吉野ひのきを使った快適空間の提案

コスト 充実の仕様の住まいが本体価格1500万円～

+

+ 繊細な素材を活かす技術を持つ大工が施工

上質な素材を卓越した技で施工
充実仕様で30坪・1500万円～

単に無垢材を使うだけでなく、素材の質や仕上がりの美しさにもこだわりたい。そんな施主の想いに応えてくれるのがエピソードの「新・香木の家」。希少な吉野材を用いた、建築棟数限定の木の家だ。

そもそも、吉野材が大量に供給されない理由は、その生産方法にある。林業の全国的な植林の平均密度は1haに3000本。吉野は1万本を大植林し木を上へと成長させ、少しずつ間伐を何度も繰り返し、年輪が狭く均一で強度のある木材を生産。木を切ると1年ほど葉枯らしをするため、薄いピンクの色艶が美しく仕上がる。さらに吉野材を化粧で使うには熟練大工の技が必要となるため、施工棟数も限られている。「新・香木の家」では化粧の柱や床に吉野ひのき、和室には吉野杉を採用。優れた断熱・気密・遮熱性などの高い性能も備えている。こうしたこだわりの家が本体価格1500万円～（延床面積30坪）を実現。同社では新・香木の家のことがよく分かる資料をプレゼント中。まずは、お問い合わせを。